

事業シート（概要説明書）

様式1号

① 事業名	文化財関係施設管理運営業務	総合計画体系	章	03元気創造都市	節	07市民文化
② 細事業名	滝畑ふるさと文化財の森センター施設管理業務	担当部・課	生涯学習部 ふるさと文化課		事業開始年度	平成19年度
		根拠法令				

③ 事業内容 (手段・手法など)	①文化財建造物その他文化財の保存に必要な植物性資材(以下「植物性資材」という。)を活用するための技術的研修及び普及啓発活動に関する事業 ②植物性資材の安定供給及び保存育成に関する事業 ③地域の文化遺産の保護及び継承の必要性を啓発する事業 ④植物性資材、歴史、芸術、民俗等に関する資料の収集及び保存並びにそれらの調査研究に関する事業 ⑤体験学習及び野外活動に関する事業並びにその指導及び助言 ⑥研修宿泊施設を体験学習及び野外活動の用に供する事業 ⑦事業の情報提供									
④ 目的 (何のために)	文化遺産の保護に必要な植物性資材に関する技術的研修及び普及啓発活動を推進するとともに、豊かな自然の中で地域の資産を活かした体験学習の場を提供することにより、社会教育の振興を図る									
⑤ 対象及び人数 (誰・何を対象に)	市内外を問わず、あらゆる年代の人対象に、有料施設(研修宿泊施設)利用者は、年間約10,000人、無料施設(資料館)来館者は、年間約6,000人									
⑥ 現在の実施方法	職員が直接実施 (詳細:)									
⑦ コスト	平成23年度予算		直接経費(A)の内訳							
	直接経費(A)	20,209千円	嘱託員報酬 13,768千円 旅費 14千円 役員費 1,008千円 使用料及び賃借料 552千円 備品購入費 345千円		夏季繁忙期アルバイト賃金 1,069千円 需用費 5,430千円 委託料 12,810千円 原材料費 50千円					
	人件費(B) ※(C)+(E)	23,097千円	内訳 担当正職員:概算人件費(C) (H22決算平均給与8,260千円×従事職員数)		8,260千円	従事職員数(D)	1人			
			臨時職員他(嘱託・アルバイト)人件費(E)		14,837千円	従事職員数(F)	10人			
総コスト (A)+(B)	43,306千円		財源内訳(収入)							
			国・府からの補助金等	0円	使用料・手数料	9,357千円	一般財源(市債含む)	33,949千円	その他	0千円
⑧ 対象事業の抽出の視点 (選考優先順位)	<input type="checkbox"/> 廃止を視野に入れている事業 <input type="checkbox"/> 類似事業や民間で実施しているサービスがある事業 <input type="checkbox"/> 見直しを検討している事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市民協働・指定管理・委託などのアウトソーシングを行う余地の比較的大きな事業 <input type="checkbox"/> 積極的に市民の意見を取り入れたい事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業									

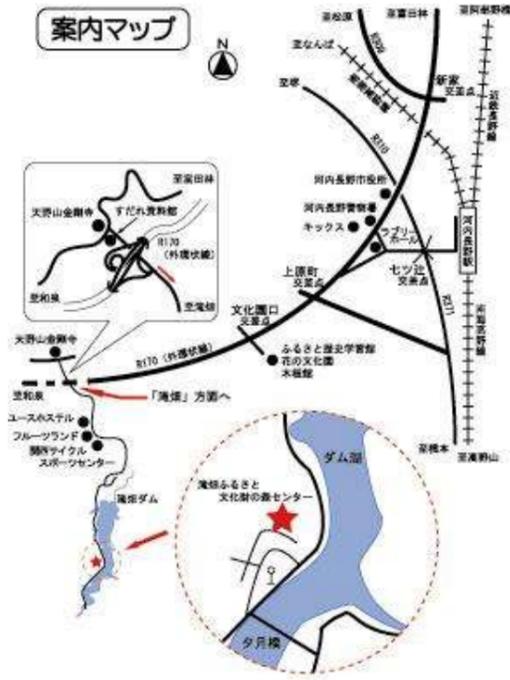
⑨ 目標 (目指すところ) ※より具体的に記入	①文化庁の提唱する「ふるさと文化財の森構想」の拠点機能としての役割を果たすとともに、植物性資材や文化財修理技術の保存・活用・育成を通じて地域の文化遺産の保護及びその必要性の啓発並びに地域の活性化に資する ②平成25年度での指定管理者制度導入への条件整備 ③利用対象を市内外を問わず、様々なNPO、ボランティア団体、社会教育関係団体などにも拡大し、世代や活動内容を異にする様々な団体が交流できる、既存の枠組みにとらわれない施設とする ④子どもから大人までのすべての階層の利用者が活動し、交流して元気になる施設とする ⑤単なる参加・利用から、事業の企画運営までできる参画機能を持たせる。 ⑦利用者の体験活動をサポートするために、周辺の各施設とのネットワークを形成し、滝畑地区だけでなく、市域の自然、歴史、文化等の情報拠点かつ「奥河内」構想の岩湧山エリアの拠点施設とする					
⑩ 事業の現状	●岩湧山の茅場に続き、平成23年度において、千石谷市有林の文化財の森ゾーンが、文化庁から檜皮の「ふるさと文化財の森」として選定を受け、茅及び檜皮を継続的に植物性資材として檜皮を安定的に確保するとともに、茅及び檜皮にかかわる技術者を育成し、植物性資材や技能に関する普及啓発活動を実施している ●研修宿泊施設(旧青少年活動センター)については、平成22年度より従来の青少年を中心にした利用から、夏休み期間中を除き、すべての年代に人々が利用できる施設としている。					
⑪ 目標と現状の差 (課題) ⑨-⑩	●二つの機能、文化財の森センター機能と旧青少年活動センター機能の共存 ●指定管理者制度導入への条件整備 ●文化財保護や岩湧山の茅をはじめとする修復資材の供給や保全・育成に関する普及啓発、生涯学習やボランティア活動の拠点施設としての役割					
⑫ 解決策と論点 (⑪の課題の解決策と問題点)	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">最終論点</div> <p>【解決策1】 施設統合の目的である、歴史・自然・体験・子ども・伝統技能をキーワードにした、『展示』、『講座』、『体験』を中心にした各種事業を企画運営し、市民向けはもちろん、技能者研修を本格的に実施するとともに、従来の青少年関係団体の宿泊利用の制限を取り払うことにより、幅広い年代の利用を可能とし、「奥河内」、特に滝畑地区をフィールドとするすべての年代の体験活動を展開していく。</p> <p>【解決策2】 指定管理者を導入する場合、施設機能である、ふるさと文化財の森センター機能・民俗資料館機能・体験学習、研修宿泊機能を堅持できること、研修宿泊施設建設から20年を経とうとする中での施設・設備の老朽化対策、専門職員(学芸員や体験学習ファシリテーター)の確保が不可欠であること、地区の方の施設に対する思い入れの理解、地域の活性化につながる、地域の人と物の活用が図れることがなどがあると考えられ、今年度後半から市民の声も取り入れた形での検討に入る。</p> <p>【解決策3】 【解決策1】を実施することはもとより、従来より行っている普及啓発活動はじめ、滝畑地区の所有である茅場の保護・育成の支援、市有林文化財の森ゾーンにおける檜皮採取の技能者の養成、技術向上研修に寄与するための施策を実施する。</p> <p>【論点1】 茅・檜皮の資材の確保や技能者の育成機能と青少年育成機能をどう風にかえるか。 【論点2】 指定管理者導入の考え方 【論点3】 茅場・檜皮の全国的な拠点としてやっていくには、どんな方法があるか、その場合の市の役割は何か。</p>					

様式 2 号

○ 滝畑ふるさと文化財の森センター

所在地 河内長野市滝畑 4 8 3 - 3
 開館年月日 平成 2 2 年 4 月 1 日 (施設統合日)
 開館時間 午前 9 時 ~ 午後 5 時
 管理体制 センター長 (ふるさと文化課主幹が兼任) 常駐 1 名
 センター職員 (非常勤) 学芸員 2 名
 その他 4 名

【設置目的】
 文化遺産の保護に必要な植物性資材に関する技術的研修及び普及啓発活動を推進するとともに、豊かな自然の中で地域の資産を活かした体験学習の場を提供することにより、社会教育の振興を図る。



研修宿泊施設前景

資料館民家棟前景

過去 3 年度の宿泊研修施設 利用団体種別

		市内		市外		合計	
		団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数
こども会	H20	21	709	3	297	24	1,006
	H21	16	654	0	0	16	654
	H22	19	776	0	0	19	776
小・中学校	H20	6	313	19	648	25	961
	H21	9	583	20	636	29	1,219
	H22	6	393	26	908	32	1,301
高校・大学	H20	9	234	13	554	22	788
	H21	8	104	17	802	25	906
	H22	4	66	9	386	13	452
幼稚園・保育園	H20	10	383	9	542	19	925
	H21	9	297	14	806	23	1,103
	H22	10	396	16	857	26	1,253
青少年育成団体	H20	49	2,158	1	72	50	2,230
	H21	42	1,849	0	0	42	1,849
	H22	32	1,554	5	87	37	1,641
その他	H20	76	2,956	55	1,863	131	4,819
	H21	65	2,378	69	2,268	134	4,646
	H22	70	2,360	57	1,606	127	3,966
合計	H20	171	6,753	100	3,976	271	10,729
	H21	149	5,865	120	4,512	269	10,377
	H22	141	5,545	113	3,844	254	9,389

過去 3 年度の資料館入館数

		H20	H21	H22
		小学生 (幼)	男	617
	女	662	492	438
中学生	男	116	125	127
	女	79	76	101
高校生	男	30	26	4
	女	15	18	6
大学生	男	14	4	26
	女	14	7	34
一般	男	2,461	2,544	1,942
	女	2,211	2,217	1,693
計	男	3,368	3,230	2,595
	女	2,981	2,810	2,272
合計		6,219	6,040	4,867

様式第2号（2 / 2）

（参考資料）

技能者の育成及び普及啓発事業（事業費は別途歴史遺産活用事業からの支出）

1. 全国社寺屋根等工事保存会による茅刈り研修

【期間】平成22年2月21日から2月24日

【総数】延べ20人 【茅刈取数】 234束

【内容】

当初予定していた第1回茅刈り体験が積雪のため中止となり、3月に予定している茅刈り体験も、天候の影響等で、実施できるかどうかわからないので、研修生により可能な限り新芽の発育を促すための茅刈り研修を実施した。

なお、2月24日は雨天のため刈り取った茅の一部を、「茅整理」の研修教材として活用した。



茅刈り研修初日集合写真



茅刈り研修初日茅刈り風景



茅刈り研修初日茅刈り風景



茅刈り研修二日目茅刈り風景



茅刈り研修三日目茅整理風景



茅刈り研修三日目茅整理風景

2. ボランティアによる茅刈り

第1回 茅刈り体験

【日時】 3月6日(日) 9:00～16:00

【参加者総数】 65人 【茅刈取数】 209束

【概要】

滝畑地区の方々の指導により、午前3時間、午後3時間、合計6時間の茅刈りを行った。参加者を5班に分け、各班で茅を刈る、茅を束ねる、茅を運ぶ作業を交代しながら行った。茅の刈り取り終了後は、茅保管庫へ茅の搬入を行った。



第1回茅刈り体験集合風景



第1回茅刈り体験 現地注意事項説明風景



第1回茅刈り体験 茅刈り注意事項説明風景



第1回茅刈り体験 茅刈り注意事項説明風景

第1回茅刈り体験 茅結束方法説明風景



第1回茅刈り体験 茅刈り風景



第1回茅刈り体験 茅刈り風景



第1回茅刈り体験 茅集積風景



第1回茅刈り体験 茅積み風景



第1回茅刈り体験 茅倉庫搬入風景



第1回茅刈り体験 茅倉庫搬入風景



第2回 茅刈り体験

【日時】 3月12日(土) 9:00～16:00

【参加者総数】 21人 【茅刈取数】 79束

【内容】

東日本大震災発生のため、多くの参加予定者が欠席するなか、滝畑地区の方々の指導により、午前に3時間、午後に3時間、合計6時間の茅刈りを行った。参加者が前回参加者で経験があり、参加者が少なかつたため2班にわけ、前回同様各班で茅を刈る、茅を束ねる、茅を運ぶ作業を交代しながら行った。茅の刈り取り終了後は、茅保管庫へ茅の搬入を行った。



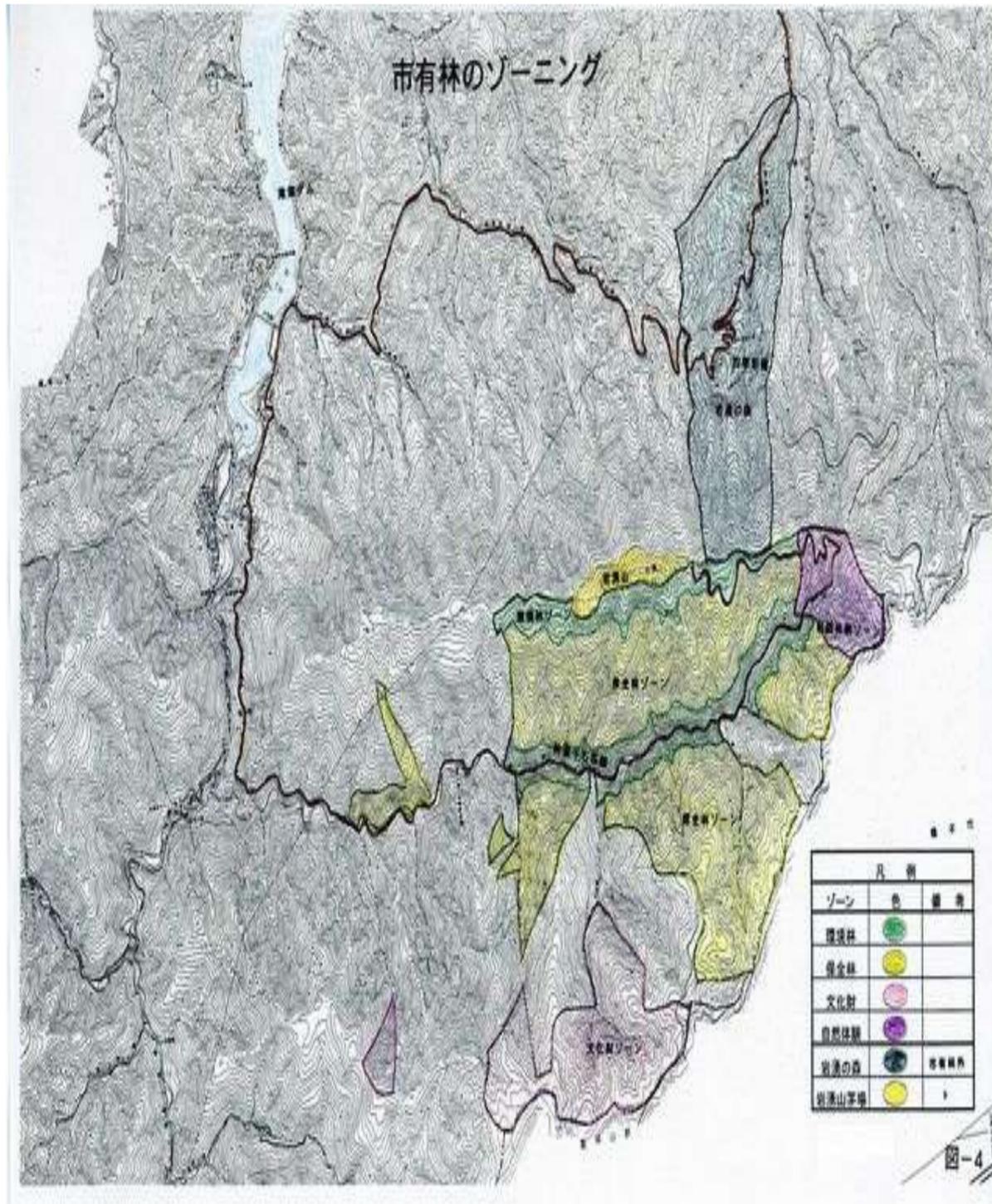
第2回茅刈り体験 茅搬入終了後風景

第2回茅刈り体験 茅倉庫搬入風景

第2回茅刈り体験 茅倉庫搬入風景

3. 檜皮採取者養成研修及び檜皮採取林の育成

河内長野市の最高峰である南葛城山（標高 922m）周辺に所在する市有林を文化財建造物修理用の檜皮供給地として活用するために、現地のヒノキの生育状況を調査し、檜皮採取可能な森として育成するため、平成20年度において基礎的情報を収集した結果を活用し、全国社寺等屋根保存会との共催で、国宝重要文化財及びそれらに準ずる文化財建造物の保護に資するため、桧皮葺屋根の資材確保と檜皮採取者の後継者育成を目的として、檜皮採取者養成研修及び檜皮採取林の育成事業を実施するとともに、荒皮（初回の採取で得ることのできる檜皮）の採取により将来的に玄皮（2回目以降の採取で得ることのできる檜皮）を採取できるようにした。



滝畑（南葛城山付近）

千石谷市有林 文化財の森ゾーン

【研修者】

文化庁認定文化財選定保存技術者を有する公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会に属する
会員で、採取事業の参加を認められた者

【採取期間】

第1回 平成22年8月30日(月)～9月10日(金)

参加人数 14名
指導員 1名
中級研修生
Aランク 1名
BCDランク 4名
初級研修生 4名
屋根研修生 4名
採取本数 331本
採取 930.0kg

第2回 平成22年9月13日(月)～9月24日(金)

参加人数 9名
指導員 1名
中級研修生
Aランク 1名
BCDランク 3名
初級研修生 4名
屋根研修生 0名
採取本数 354本
採取 655.8kg

第3回 平成22年9月27日(月)～10月8日(金)

参加人数 4名
指導員 0名
中級研修生
Aランク 2名
BCDランク 2名
初級研修生 0名
屋根研修生 0名
採取本数 241本
採取 557.2kg

総計

参加人数 27名
指導員 2名
中級研修生
Aランク 4名
BCDランク 9名
初級研修生 8名
屋根研修生 4名
採取本数 926本
採取 2,143.0kg



千石谷のスギ・ヒノキ林



研修生による檜皮採取風景

研修生による檜皮採取風景

資料館管理運営事業

1. 施設薫蒸事業

民家保存のため、また展示活動の一環として、民家棟内のいろりを利用し薪の燃焼実演を行った。5月～6月と10月～3月の毎週水曜・土曜・日曜と祝日に、文化財ボランティアの協力により実施。

2. 資料館展示事業

ア. 常設展示

- ・ 民家棟（旧梶谷豊太郎家住宅を移築復元）・・・箱火鉢、箆筒、水屋、竈など
- ・ 資料室・・・滝畑の歴史と暮らしに関する資料・昔の暮らしに関する資料・木綿に関する資料
- ・ 展示室・・・伝統的建築と植物性文化財修復資材に関する資料
- ・ 屋外展示・・・不喰供養碑・唐臼・大八車

イ. 企画展示

会 期	展示テーマ	展 示 概 要
4月17日(土) ～5月9日(日)	「石川水系をたどる 写真の旅ー西條橋 から滝畑までー」 写真展	河内長野市美術協会及びOHYU写真団体の協力で、西條橋から滝畑までに関連する作品を集めて展示した。
2月5日(土) ～4月9日(土)	「昭和のお雛さま」	桃の節句にちなんで、民家棟で雛人形を展示した。

3. 資料館講座事業

月 日	テーマ	内 容	講 師	会 場	受講者数
7月22日(木) 23日(金)	夏休み 子ども 体験 教室『も の作り むか し・むか し～』	2回シリーズ ①網代編みのフォト フレーム作り ②子持勾玉作り	ふれあい考古館職員 郷土資料館職員 ふるさと文化財の 森センター職員	滝畑ふるさと文化 財の森センター	①13人 ②14人
10月12日(火)	茅葺民 家で滝 畑の伝 統食を 味わう	民家棟の中で滝畑の 伝統食を味わい、昔 の滝畑の生活、滝畑 の食文化や生活の知 恵を体感する。 また、滝畑の茅を お月見の飾りに使う ことで、茅場の保全 や、文化財を守るた めに必要な修復資材 の理解を深める。	滝畑湖畔観光農林 組合組合員	ふるさと文化財の 森センター資料館 民家棟	15人
10月17日(日)	古民家 コンサ ート	民家棟において、音 楽サークル等が合 唱、楽器演奏などを行 った。	市内を拠点に活動 する音楽サークル 7組	ふるさと文化財の 森センター資料館 民家棟	81人
11月14日(日)	茅葺き 民家で、 わらぞ うり作 り	わらぞうりを作るこ とを通じて、稲作と 昔の生活用具や道具 の文化について考え る。	ふるさと文化財の 森センター職員	ふるさと文化財の 森センター資料館 民家棟	11人
3月16日(水)	茅葺き 民家で、 一閑張 り作り	農閑期に作られてい た一閑張り作りを体 験することで、昔の 人の生活を感じても らうとともに、自然 素材の渋柿に対する 理解を深めてもら う。	ふるさと文化財の 森センター職員	ふるさと文化財の 森センター資料館 民家棟	16人

「ふるさと文化財の森」設定地一覧

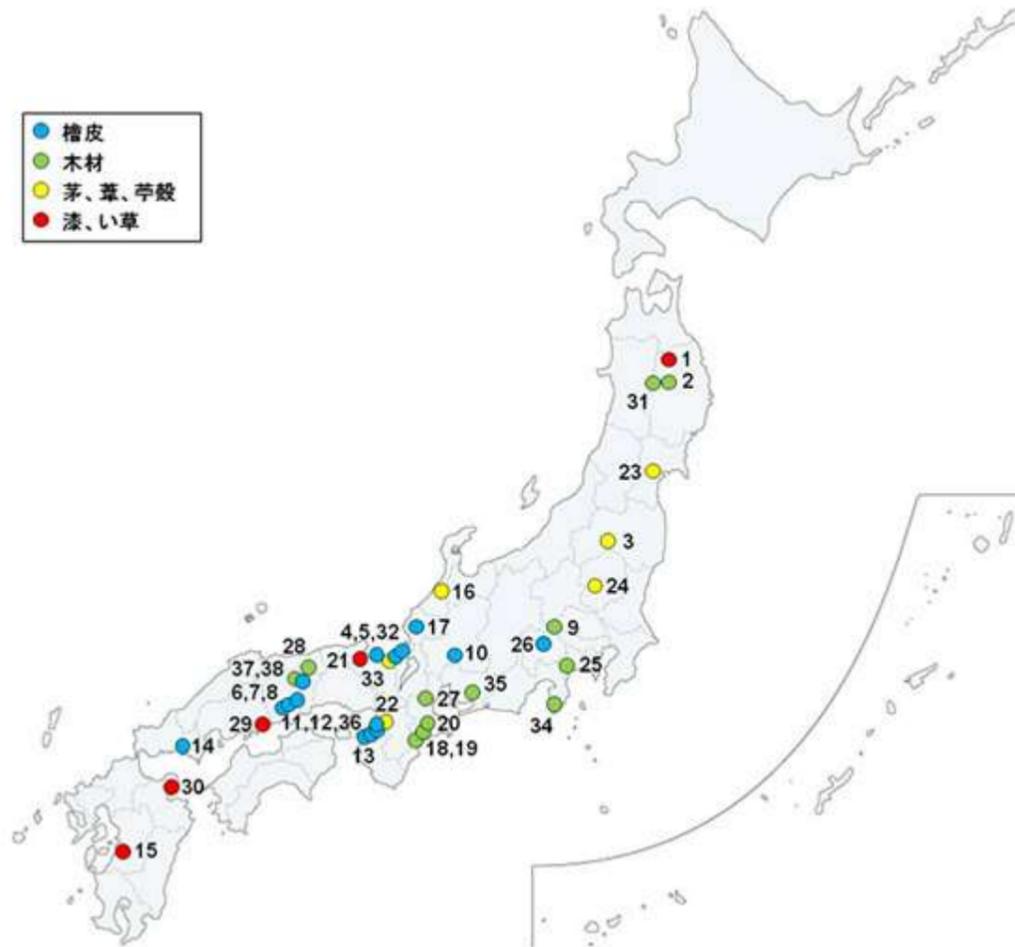
平成 23 年 5 月 2 日現在

	材種	名称	所在地	所有者等
1	うるし 漆	じょうぼうじ 浄法寺漆林	岩手県二戸市	二戸市
2	アカマツ	たきざわ 岩手大学滝沢演習林	岩手県岩手郡滝沢村	岩手大学
3	かや 茅	おおうちじゆく 大内宿茅場	福島県南会津郡下郷町	大内区
4	ひわだ 檜皮	はがじ 羽賀寺境内林	福井県小浜市	羽賀寺
5	檜皮	みょうつうじ 明通寺境内林	福井県小浜市	明通寺
6	檜皮	よしかわはちまんぐう 吉川八幡宮境内林	岡山県加賀郡吉備中央町	吉川八幡宮
7	檜皮	はちまん 八幡神社境内林	岡山県加賀郡吉備中央町	八幡神社
8	檜皮	やまと 大和神社境内林	岡山県加賀郡吉備中央町	大和神社
9	サワラ	ちちぶ 東京大学秩父演習林	埼玉県秩父市	東京大学
10	檜皮	にちりゅうぶじ 日竜峰寺境内林	岐阜県関市	日竜峰寺
11	檜皮	かんしんじ 観心寺境内林	大阪府河内長野市	観心寺
12	檜皮	こんごうじ 金剛寺境内林	大阪府河内長野市	金剛寺
13	檜皮	おがみ 意賀美神社境内林	大阪府泉佐野市	意賀美神社
14	檜皮	京都大学徳山試験地	山口県周南市	京都大学
15	い草	やつしろ ほ 八代地域い草圃	熊本県八代市	個人（240名）
16	茅	ゆわく 金沢湯涌茅場	石川県金沢市	NPO 法人石川県茅葺き文化研究会
17	檜皮	おおたき 大瀧神社境内林	福井県越前市	宗教法人大瀧神社

18	ヒノキ	はやみ 紀北町速水林業ヒノキ林（井出地区）	三重県北牟婁郡紀北町	速水林業
19	ヒノキ	おおたがひらお 紀北町速水林業ヒノキ林（大田賀平尾地区）	三重県北牟婁郡紀北町	速水林業
20	ヒノキ	吉田本家山林部ヒノキ林	三重県多気郡大台町	個人
21	漆	やくの 夜久野丹波漆林	京都府福知山市	丹波漆生産組合
22	茅	いわわきさん 岩湧山茅場	大阪府河内長野市	滝畑自治会
23	茅	じょうぼんざん 上品山茅場	宮城県石巻市	石巻市
24	おがら 苧殻	かぬまやしゅう 鹿沼野州麻畑	栃木県鹿沼市	個人
25	ヒノキ・スギ	もろと 秦野市諸戸林業ヒノキ・スギ林	神奈川県秦野市	諸戸林業株式会社
26	檜皮	うんぼうじ 雲峰寺境内林	山梨県甲州市	宗教法人雲峰寺
27	ヒノキ・スギ	亀山市諸戸林業ヒノキ・スギ林	三重県亀山市	諸戸林業株式会社
28	スギ	智頭町有スギ林	鳥取県八頭郡智頭町	智頭町
29	い草	びんごくまの 備後熊野い草圃	広島県福山市	個人
30	しちとう 七島い	くにさき しちとう 国東地域七島い圃	大分県国東市	個人（9名）
31	スギ・ヒバ	おみょうじん 岩手大学御明神演習林	岩手県岩手郡雫石町	岩手大学
32	茅	なかなた茅場	福井県小浜市	森の郷なかなた産物組合
33	檜皮	ふくたに おおい町福谷地区ヒノキ林	福井県大飯郡おおい町	個人
34	クスノキ	じゅげい 東京大学樹芸研究所クスノキ林	静岡県賀茂郡南伊豆町	東京大学
35	スギ・ヒノキ	しょうてん 新城市昭典木材スギ・ヒノキ林	愛知県新城市	昭典木材株式会社
36	檜皮	せんごくだに 千石谷のスギ・ヒノキ林	大阪府河内長野市	河内長野市
37	スギ・ヒノキ	岡山県有スギ・ヒノキ林 ごたいてんきねんりん (御大典記念林)	岡山県津山市	岡山県
38	檜皮	にしがみ 西上山林組合ヒノキ林	岡山県津山市	西上山林組合

(設定年月日)

1～8：平成 19 年 3 月 27 日，9～15：平成 20 年 3 月 28 日 (15：追加設定 平成 22 年 4 月 22 日)，
16～22：平成 21 年 3 月 31 日，23～30：平成 22 年 4 月 22 日，31～38：平成 23 年 5 月 2 日



採取された茅・檜皮の使用先

茅 センター内の旧梶谷家をはじめ金剛寺、文化庁の認定団体である全国社寺等屋根工事技術保存会を通じて、服部緑地公園内の日本民家集落博物館など国の重要文化財に使用されている。

檜皮 初年度採取の荒皮であるので、主に全国社寺等屋根工事技術保存会が指定管理者となっている、京都市文化財建造物保存技術研修センターでの、檜皮技能者の初級者研修・中級者研修に使用されている。